

被災者が抱える 申し訳なさについて

兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科 博士前期課程2年

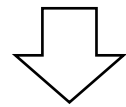
成尾 春輝

兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科 准教授

宮本 匠

申し訳なさを抱える被災者と出会う。

- これまでの被災地で出会った方の声
 - ボランティアに助けってもらってばかりなのが申し訳ない
 - 他の被災者に比べてよい環境で暮らせていること
- 申し訳なさを感じる人が、仮設住宅の方向けのイベントに来ることができない。



- 被災者を分断する申し訳なさをどのように解消していけるのか考えたい。

平成30年7月豪雨 坂町の概要 (令和元年9月1日時点)

- 2018年7月5日～8日（特に6日昼過ぎから7日朝）の大雨

- 人的被害

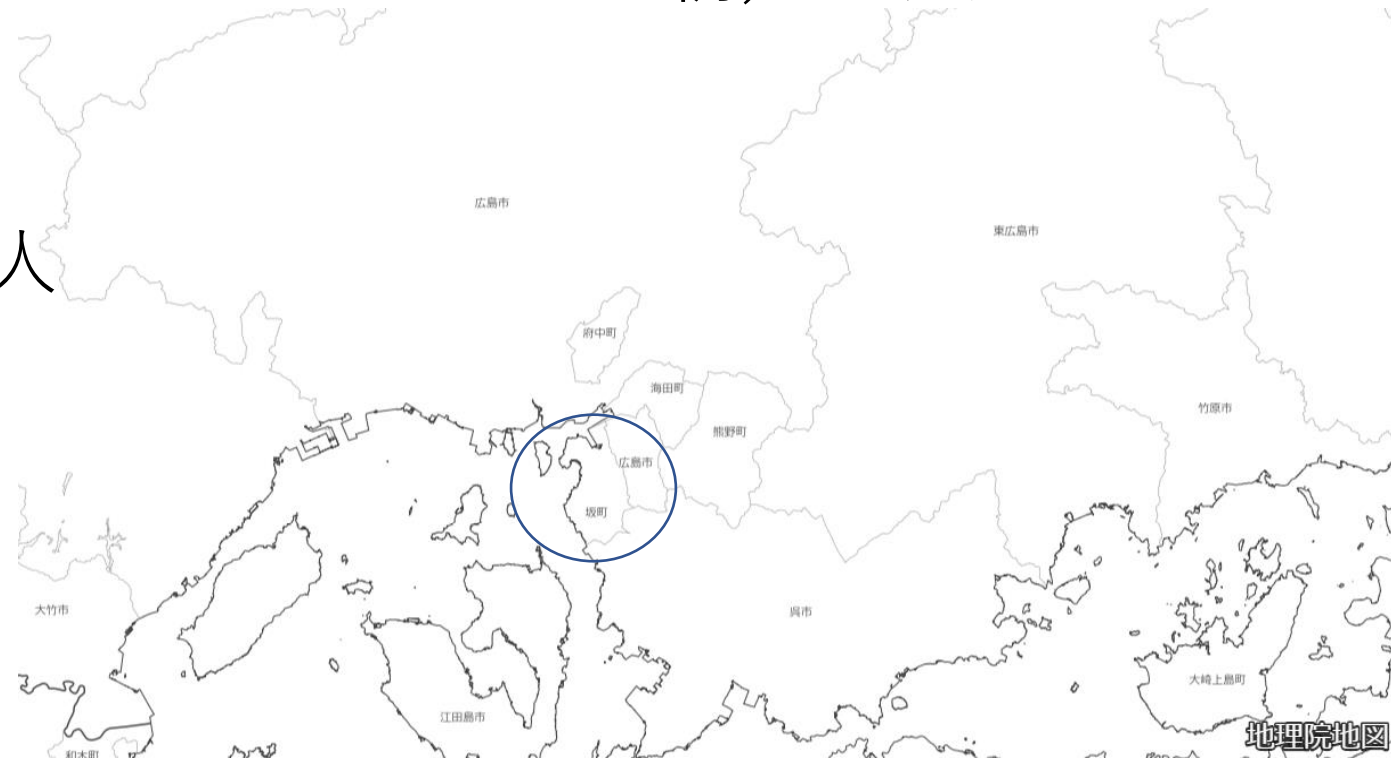
- 死者（関連死含む）：19人
- 行方不明者：1人

- 建物被害

- 全半壊家屋：1281件

- 住宅支援

- 仮設住宅：9月上旬、10月上旬に入居開始
- 公営住宅、民間賃貸借上げ：7月末に入居開始



坂町は、広島市と呉市の間にある町

坂町で既存の公営住宅に入居した被災者

- 建設型仮設住宅（プレハブ）ではなく、既存の公営住宅に入居した方と出会う。
 - 仮設住宅の近くにある公営住宅に被災者が入居
 - （イベントに誘うと）ここは仮設じゃないから。
 - （イベントで）あんた住宅じゃろ、うちは仮設じゃけ狭いんよ。
 - 災害の話をする場所に行くのは申し訳なく感じる。
- ⇒ 申し訳なさが住民を分断している。



申し訳なさを解消するために

- 分断を生んでいる申し訳なさを解消したい。
- 制度を整備する。
 - 生活実態に即した仮暮らしの形を選択できること
 - どんな形態でも、良い居住性能を確保できること
- 制度の整備をしていくことが重要であることは言うまでもない。
- でも申し訳なさを解消する鍵が、申し訳なさの中にもあるのではないか。

申し訳なさの中にある可能性

- 他者とつながる原動力となる
 - 申し訳なさを感じるのは、他者との格差に自覚的になっていること。
 - その格差を埋める行動につながる。
- 自責の念の可能性
 - 申し訳なさと類似の概念であるうしろめたさの可能性を論じた松村（2017）
例）エチオピアの物乞いの老婆
足腰が弱った老婆が歩道の中央に立ち、通行人に手を突き出してお金をせがむ。
通行人は仕方ないなという顔（うしろめたさ！）になり、小銭を手渡す。

【参考】 松村（2017）『うしろめたさの人類学』、ミシマ社

これまで出会った方々

- 広島県呉市のおばあさん
 - 平成30年7月豪雨で被災したおばあさん
 - 毎日多くのボランティアがきてくれるのに申し訳なさを感じていた
 - 自分もなにかしたいと早起きし、そうめんを大量にふるまった。
- 東日本大震災の広域避難者
 - 原発事故後、関東から避難した女性
 - 自分だけ逃げたということが忘れられず辛かった
 - 避難先で、原発に対するデモなどに参加した。

⇒ 申し訳なさを原動力にして行動した。

申し訳なさが原動力となるために

- 坂町では申し訳なさが分断を生んでいた。
- その分断を乗り越えるためには、当人の力だけでは難しい。

- 申し訳なさが原動力になるためには、その行為を受け取る他者が必要。
 - 手渡したお金を受け取る物乞い
 - そうめんを食べるボランティア など

自身の変化

- 坂町での支援活動
 - イベントに行くのを申し訳なく感じる住民に対して、申し訳ないと感じる。
 - 坂町へ通う、そして研究する理由になっている。
- 歓迎してくれる坂町のみなさん（行為を受け取る他者）
 - 毎回訪問を歓迎してくれる方
 - 研究することを許してくれる方
- 申し訳なさはまた新たな他者の申し訳なさを起動する。